

イチゴのハダニ類の防除を徹底してください。

[現在の発生状況]

- ① 9月下旬現在、県内8地点のイチゴ調査圃場におけるハダニ類の被害発生地点率、被害葉率、寄生葉率のいずれも平年より高い(表1)。

表1 イチゴ圃場におけるハダニ類の発生状況

	本年値	平年値 ¹⁾	順位 ²⁾
被害発生地点率(%)	63	11	1/11
被害葉率 ³⁾ (%)	22.4	0.3	1/11
寄生葉率 ⁴⁾ (%)	17.3	0.4	1/6

- 1) 平年値：平成15年～24年(10年間)分のデータの平均値。
ただし、ハダニ類寄生葉率については平成20～24年(5年間)分の平均値。
2) 順位：過去の調査年数における本年の順位を示す。
3) 被害葉率：ハダニ類の被害を認めた葉の発生率。
4) 寄生葉率：生きているハダニ類の寄生を認めた葉の発生率。
※調査は県内8地点で実施した。

[防除対策]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、表2を参考に、発生の少ないうちに防除を徹底する。特にビニール被覆後は発生が増加するので注意する。防除所の巡回調査データでは、年内は11月まで発生が増加する傾向にある。
- ② 薬剤は、薬剤が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチや天敵を導入する圃場では、薬剤の影響日数に十分注意する。

表2 イチゴのハダニ類に登録のある主な薬剤(平成25年9月25日現在)

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 一本剤の 使用回数	有効成分	ミツバチに対する 影響日数の目安	天敵への 影響日数 ¹⁾	
					ミヤコ カブリダニ	チリ カブリダニ
アフーム乳剤★	2,000倍	前日-2	エマメクチン 安息香酸塩	2日	- ²⁾	-
カネマイト フロアブル	1,000～ 1,500倍	前日-1	アセキノシル	翌日 ³⁾	0日	0日
コテツ フロアブル	2,000倍	前日-2	クロルフェナピル	10日	7日	-
コロマイト水和剤★	2,000倍	前日-2	ミルベメクチン	1日	1日	-
サンヨール	500倍	前日-6	DBEDC	当日 ⁴⁾	-	0日
スターマイト フロアブル	2,000倍	前日-2	シエノピラフェン	-	-	-
粘着くん液剤	100倍	前日-	ヒドロキシ プロピルデンポン	1日	*	*
マイトコーネ フロアブル	1,000倍	前日-2	ビフェナゼート	1日	0日	0日

- 1) 日本バイオリジカルコントロール協議会作成の「天敵等への殺虫・殺ダニ剤の影響の目安」から抜粋して記載した。
天敵の卵や成虫への影響も参照の上、薬剤を使用する。
2) -はデータなしを示す。
3) 影響がほとんどなく、翌日に導入可能。
4) 影響がほとんどなく、薬剤が乾けば当日には導入可能。
★アフーム乳剤とコロマイト水和剤はどちらもマクロライド系剤のため、連用を避ける。
*薬剤乾燥後に天敵を導入する場合は影響がないが、散布時に天敵が存在する場合には影響が出る恐れがある。
※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用方法・注意事項等を必ず確認のうえ、周辺作物への飛散に留意する。